

設備について(最終回)

設備については、いよいよ最終回の鉄塔の建込です。セクションのブレスは間違いなく組んで居ますか？セクション渡りのブレスは付いて居ますか？では、順に並べて置きます。パンザマストを建てる時と同じように、穴掘りです。メーカーの取説に穴の大きさや深さが記載されて居るので、記載通りに掘ります。穴掘りが、終わったら、地中に埋まるセクションと、次のセクションとの、2セクションを接続し、穴に入れます。2セクション分で地上に出る部分は30センチから40センチ程です。水平器で水平を出します。出し方は縦のレールに真直ぐな角材を渡し、その上に水平器を載せます。水平に成れば、各レールから支線を張り、生コンを流しても狂わない様にしておきます。GLから、20センチ程度上がるように、鉄塔の3角形に併せ仮枠を組みます。縦レールから仮枠までの隙間は30センチ程度有れば十分でしょう。翌日に、生コンを流し込みます。最初は少しづつ、レールに当てない様に静かに流し込みます。少し入った所で、水平に狂いが無いか、確認し、万々狂って居れば、すぐに修正します。生コンを流しながら時々、水平を確認して中間位まで入れれば大丈夫でしょう。バイブレーターが有ればバイブを掛け乍ら、無ければ、長めの棒で突き乍ら、生コンの巣穴が出来ない様に仮枠に少し盛り上がる位まで流し込み、水が引くまで、待ちます。水が引いたら、コテで仕上げます。レールの淵は水が溜まら無い様に盛り上げておきます。

生コンが固まるまで1週間ほど掛かります。固まったら、パンザを組んだ時と同じようにバカ棒を使って組んで行きます。ほとんど同じ要領ですが、違いは、1セクション分組み上げた所で、先にマストをタワーの内側に入れて、立てかけておきます。ルーフタワーのマストは重量の点で足場用の鋼管を使用しましたが今回は、64サイズの5、5mを使用します忘れたら、後からではブレスを外さないと入ら無いので注意です。後に成りましたが、穴掘りは、タワーに併せ3角に真直ぐ掘れば、穴周りの仮枠なしで生コンを流せます。GLからの仮枠はどちらにしても必要ですが、地面と同じ高さにする場合も、少しは持ち上げて置けば水が溜まりません。組み立て手順はパンザの時と殆ど同じです。

タワーが組み上れば、内側に立てかけたマストを、パンザの時と同様に、モーター台の穴から上を通してベアリングのボルトで仮止め、と言った同じ作業です。マストがセットされたら、同じようにアンテナを取り付ける事だけの作業です。アンテナの取り付けも終われば同軸ケーブルですが、アンテナからマストに添わせて、ベアリングの上から、回転部分の余長を取りますが、余裕を見て長めにし、タワーの角に当たらないようにします。引き下げて来る同軸ケーブルやモーターのコントロールケーブル、他、プリアンプ等のケーブルは、出来るだけ捻じれない様に、交差しない様に下げましょう。後々のメンテナンスが楽です。

これで、設備に対して、手軽なものから、ルーフタワーを含め、本格的なタワー迄、建てて来ました。アンテナの取り付けも終わり、アンテナから降ろして来た同軸ケーブルを無線機に繋ぐだけですが、大事な作業が有ります。念の為、アンテナと同軸ケーブルのSWRを測定しましょう。アンテナも同軸も新品なら、問題は無いと思いますが、コネクターの取り付けや各接続箇所での不具合が有るかも知れません。どこかに不具合が有って、SWRが異常に高い場合、大事な無線機を壊してしまう事に成ります。SWRとは、なんぞや？って成りますが、この「チョコット知っとこ」コーナーでは、アマチュア無線の運用する上で、知っておくべき事を書いて居ます。時間の有る時にでも読んで見て下さい。

又、運用して居る内に、必要に成って来る物も有ると思いますが、手軽な物なら、買い求めるよりも自分で、作った方が安上がりです。自作する上で必要な事柄も書いて居ます。工作すれば無線は飽きる事無く、長続きする物です。今は初心者かも知れませんが、すぐにベテランの仲間入りです。只一つ、お願いが有ります。アマチュア無線のお相手は、不特定多数の方です。これを意識の上常識に元付いた交信をお願いします。中には資格を持たない局も有る事を理解して下さい。